

# 2025年度 JASO・JASOテクニカルペーパー(TP)・JIS作業計画

JIS制定1件、改正6件 JASO制定4件、改正11件、JASO TP発行2件

作業内容	規格番号	規格名称	目的
JIS制定(1件)	新規	自動車部品—電気・電子機器の環境条件及び機能確認試験—第1部	JASO D014-1をもとに、ISO 16750-1:2023との整合を可能な限り考慮し、新規にJISとして制定する予定。但し、必要に応じて修正する可能性もあり、IDT(一致)、MOD(修正)とするかは作業進捗に応じて決定していく。
JIS改正(6件)	D 3608	ディーゼル機関 — 燃料噴射ポンプのカム軸端とハブのテーパ部	ディーゼル機関の低エミッション化、低燃費化の為、燃料噴射装置もコモンレールシステム等の新技術が投入されており、コモンレールシステムの採用拡大に伴う対応の為、2021年に新たな形状・寸法を追加するJISの改正を行った。 上記のJIS独自の規定を国際規格に反映すべく、日本から対応国際規格ISO 6519の改訂を提案し、2023年6月に改訂版が発行されたが、他国からの変更提案も盛り込まれており、結果的に現JISとの整合が不十分な状況となっている。他国提案も含む新たなISO 6519の規定内容は日本でも活用されているので、今回JISを改正し、対応ISO規格との整合性を高める。
	D 1035	二輪自動車—加速試験方法	JIS D1035:1994は1994年から見直しされておらず、気象条件などが現在の環境条件に適していない。走行試験の国際規格 Motorcycles - Measurement method for determining maximum speed (ISO 7117:2010)との整合を図る。
	D 1601	自動車部品振動試験方法	前回1995年の改正から長年を経過しており、関連規格の最新化が必要であり、改正により、適正な規格運用が期待される。
	D 2101	自動車部品—ねじプラグ	自動車部品—ねじプラグ (JIS D 2101:2001) は1954年の制定以降、広く自動車業界で使用されている。前回2001年の改正から長年を経過しており、引用規格の最新化、関連規格との整合が必要であり、引用規格を最新版とすることにより、関連規格、類似規格との互換性を確保し、規格活用や部品共有の促進を図ることが出来、自動車メーカー、サプライヤーの双方の経済的効果が期待できる。
	D 2102	自動車用打込みプラグ	自動車用打込みプラグ JIS D 2102 は前回改正が1993年であり30年が経過している。そのため、引用規格の最新化、関連規格との整合が必要と考えられるため、現状に合わせた規格改正を行う。
	D 2301	自動車用クレビス継手部品	前回1990年の改正から長年を経過しており、引用規格の最新化、関連規格との整合が必要であり、引用規格改正による番号・名称・内容の相違が複数あり。改正により、適正な規格運用が期待される。
JASO制定(4件)	新規	二輪自動車—ワイヤハーネス用保護材—試験方法	絶縁用ビニールチューブの規格はJIS C2410, C2133, C2145で制定されていたが現在廃止となっている。これらの規格は自動車用に制定された規格ではないが、二輪車業界ではこの規格を参考に絶縁用ビニールチューブを使用した経緯があり、廃止となった現在新たに二輪車用として制定の必要性が高まっている。保護材の性能評価試験の現状及び各社規定項目の再確認を行い、来年度にJASOとしてまとめる。
	新規	自動車部品—ブレーキディスク試験方法 第2部 幾何特性	自動車用鋳鉄製ブレーキディスクの幾何特性を測定する試験方法を新たに制定する。現状、日本(JIS, JASO)には、ブレーキディスク用の試験方法はなく、各社が様々な独自の方法でグローバル化に対応している。また、ISO/TC22/SC33/WG10でも、PWI 4792の国際規格制定、NP提案に向けた検討を進めている。今回第2部として、ブレーキディスクの幾何特性仕様 (GPS) の面性状、振れ、ディスクしゅう動部厚さの変動などについて標準的計測方法を制定し、効率化とグローバル化に対応する。
	新規	自動車—実走行状態を再現するシャシダイナモメータ試験システムの性能要件及びその評価法 (Part3) (仮) — xEV等の新方式車両にも対応可能なシャシダイナモメータの要件の検討	低CO2性をアピールする xEV等の新方式車両の実用性能の評価が重要となるため、基本的な評価試験設備であるシャシダイナモメータに求められる性能要件を明確にした上で、試験設備自体の客観的な性能評価方法や有用かつ実用的な関連規格の策定を行う。
	新規	自動車部品 — 水冷バッテリーサーマルプレート— 交換熱量試験方法(仮)	電気自動車はバッテリーの温度管理が重要となっており、現状ではバッテリーと熱交換を行う水冷バッテリーサーマルプレート (以下BTP) による温調方式が主流となりつつあるが、その性能試験方法について統一した規格が存在していない。そこで標準化調査を通して有用性があるとの判断ができた為、JASOを制定する。
JASO改正(11件)	D 019	自動車用半導体EMC性能等価性試験法	2019年ICのEMCに関する等価性評価試験法は、発行後、自動車の電子部品のマイコンのPCN等の変更時の等価性評価手法として運用されている。今回、引用IEC規格、及び電子部品業界の関係規格 JEITA ED5008Aが改定発行され、適用周波数の見直し、適用端子の見直し等の改定が行われている。自動車の電子システムの搭載ICのPCN等の変更時の等価性試験法の改定アップデートし、効率的なPCN変更等の切り替え評価が必要となる。
	E 014	自動車—シャシダイナモメータの要件及び評価方法 — 燃料消費率試験への適用	本規格は、見直し調査において多く活用されているが、引用規格の JIS D1012 がTRIASなどの規制の変化に伴い一部を除き使用されなくなった。そこで、JIS D1012の引用を切り離す改正を行う。引用箇所が多くあり、本規格本文の追加部分が多くなるため、小改正ではなく改正とする。
	E 015	自動車—シャシダイナモメータを用いた派生車両の走行抵抗算出方法	本規格は、見直し調査において多く活用されているが、引用規格の JIS D1012 がTRIASなどの規制の変化に伴い一部を除き使用されなくなった。そこで、JIS D1012の引用を切り離す改正を行う。引用箇所が多くあり、本規格本文の追加部分が多くなるため、小改正ではなく改正とする。
	M 340	2サイクルガソリン機関—潤滑油—潤滑性評価試験方法	JASO M340:2018 滑性評価試験方法にて使用する比較標準油、校正油であるJATRE-1, JATRE-3の基油が製造終了となった。代替の比較標準油、校正油への移行を行う。
	M 341	2サイクルガソリン機関—潤滑油—清浄性評価試験方法	JASO M341:2018 清浄性評価試験方法にて使用する比較標準油、校正油であるJATRE-1, JATRE-3の基油が製造終了となった。代替の比較標準油、校正油への移行を行う。
	M 342	2サイクルガソリン機関—潤滑油—排気煙試験方法	JASO M342:2024 排気煙試験方法にて使用する比較標準油、校正油であるJATRE-1, JATRE-3の基油が製造終了となった。代替の比較標準油、校正油への移行を行う。
	M 343	2サイクルガソリン機関—潤滑油—排気系閉塞性評価試験方法	JASO M343:2018 排気系閉塞性評価試験方法にて使用する比較標準油、校正油であるJATRE-1, JATRE-3の基油が製造終了となった。代替の比較標準油、校正油への移行を行う。
	M 345	2サイクルガソリン機関—潤滑油—性能分類	JASO M345:2024 性能分類にて使用する比較標準油、校正油であるJATRE-1, JATRE-3の基油が製造終了となった。代替の比較標準油、校正油への移行を行う。
	F 124	自動車部品—樹脂用タッピンねじ	自動車部品—樹脂用タッピンねじ JASO F 124 は1994年に制定され、JIS/ISOにはない独自の規格となっている。引用規格の最新化、関連規格との整合が必要と考える。また、市場に於ける規格の使用実態を確認し、現状に合わせた規格改正を行う。
	M 315	自動車—自動変速機油	前回の改正 (FY20) で追記した加速試験方法 (面圧1.5 MPa) のラウンドロビン試験による評価の安定性の確認し、本評価法の基準値を設定する。
	M 349	自動車—自動変速機油のシャッター防止性能試験方法	JASO M 349:2020(前回)は、自動車技術会変速機油分科会メンバー (2017年アンケート要望) の要望に応え、試験装置でのばらつき低減と試験時間の短縮につながる面圧の増加である面圧1.5 MPa法を新たに定めた。今回、M315で面圧1.5 MPa法の基準を設けることに伴い、記載内容を修正する。
TP発行(2件)	新規	自動車用半導体素子のEOL対応のガイドライン ※EOL=End Of Life	これまでに当部会配下の自動車用半導体分科会では、半導体ライフサイクルのBCP対応として、初期(部品認定時)の業界標準ガイドライン (TP24001) と、量産中 (PCN時) の業界標準ガイドライン (TP22001/TP23001) を発行し、25年度は部品終息 (EOL時) の業界標準ガイドライン (JASO-TP) の発行を行う。
	新規	DCDCコンバータ給電における信頼性評価条件	DCDCコンバータ給電を採用する電動車の電源システムは、各自動車/部品メーカーそれぞれが開発を進めてきたが、要となるDCDCコンバータ給電の信頼性評価手法については、オルタネータを前提としたJASO D014を参照するに留まっている。一方で、国際会議にてDCDCコンバータ給電をテーマとする新たな規格提案がなされ、国際的にもその規格化の動きが加速している。以上から、既存のJASOを活かし、DCDCコンバータ給電特有の評価条件をテクニカルペーパー (TP) として策定する。